

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ヒート・エクストリーム	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.500	△RG	0.038	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ヒート・エクストリーム

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：ヒート

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

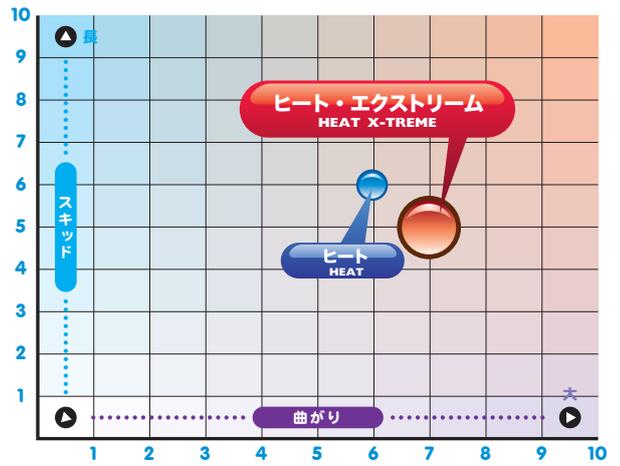
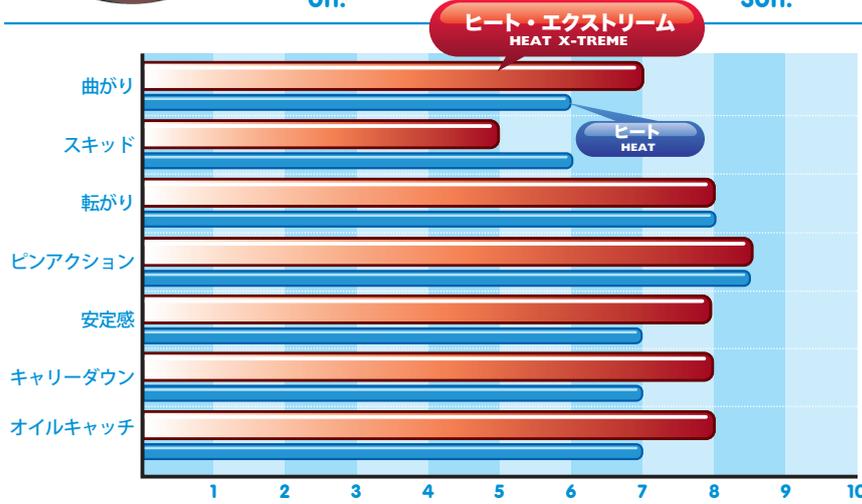
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

記憶に新しいDHCカップ PBA ジャパン インビテーショナルで優勝を成し遂げたアムレット・モナチェリが最終的にチョイスしたボールがTRACK社のHEATでした。遡ること十数年、あの当時名機と言われたTriton HEATが現代のCoverstockに置き換えられ、復活とともにすぐ結果としてあらわれた瞬間でした。HEATがさまざまなタイプのボウラーにニーズが高いのは物理的フリクション(表面加工)で大幅にPerformance領域を広げられるため、幅広いボウラーに対応が可能になるところでしょう。その第2弾のHEATがバージョンアップしたHEAT EXTREMEが発売されます。HEATの象徴のModified Tri-Coreは数値は変わらずにDR-5 PearlからQR-5 Solid Coverstockへと変更されました。Cover Stock形態はSolid Reactiveへの変更ですが、QR-5はQ=Quick+Responseを表しますので、「メリハリの動きが出せるSolid Reactive」という素材が使われていることが読み取れます。テストングの印象は#2000アブラロン仕上げでも手前からの噛み上がりは少ないと感じました。Quick系のReactiveのわりにはContinuous(持続的な曲り)なイメージを前面に出しており、「幅広いコンディションで実用性の高さ」に焦点をあて作られた意図を感じました。それを含めやや曇った仕上げなのでしょう、初代HEATと比べオイルが多い時に読んだ軌道そのままラインにあわせることができます。ドライゾーンでもメリハリ感は若干緩めに感じるものあえて、ラインの内と外の差を有効に使うためのものであり、キャッチさせ過ぎない(余計に曲がり過ぎない)ことの本質を感じるためにこのボールは必要だと思います。”ただ曲がればよい”という感覚からSkid、Hook、Rollに至るまですべてコントロールしてポケットまで運ぶ。それがHEAT EXTREMEを持つことに繋がります。

特記事項

初代HEATよりもオイルが多い時にコントロール性を発揮します。派手さよりも、狙ったラインで的確に仕事をこなす職人です！